



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月31日

上場会社名 エバラ食品工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2819 URL https://www.ebarafoods.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森村 剛士
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 半田 正之 TEL 045-226-0107
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	12,370	1.9	1,046	129.6	1,076	126.3	705	131.0
2020年3月期第1四半期	12,138	△1.8	455	△2.5	475	△7.8	305	△6.7

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 776百万円 (169.8%) 2020年3月期第1四半期 287百万円 (△16.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	68.11	—
2020年3月期第1四半期	29.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	38,521	26,065	67.7	2,517.29
2020年3月期	37,507	25,475	67.9	2,460.36

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 26,065百万円 2020年3月期 25,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	18.00	—	18.00	36.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	18.00	—	19.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,100	△1.9	1,450	24.8	1,500	25.9	990	25.7	95.61
通期	50,095	△2.2	1,702	△26.3	1,784	△24.9	1,175	△20.7	113.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	10,468,710株	2020年3月期	10,468,710株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	114,151株	2020年3月期	114,151株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	10,354,559株	2020年3月期1Q	10,413,259株

（注）期末自己株式数には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（信託口）（再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口））が保有する当社株式（2021年3月期1Q 17,092株、2020年3月期 17,092株）が含まれております。また、「従業員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（信託E口）（再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口））が保有する当社株式（2021年3月期1Q 一株、2020年3月期1Q 30,000株）及び「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（信託口）（再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口））が保有する当社株式（2021年3月期1Q 17,092株、2020年3月期1Q 25,449株）を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年6月30日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大による国内外の経済減速の影響や個人の消費活動の変化により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは、国内市場における超高齢化、世帯人数の減少、共働き世帯の増加、人口減、社会の成熟化に伴うニーズの多様化に加え、デジタルテクノロジーの進展、ミレニアル世代等の新たな消費者層の拡大、アジアの成長や経済のグローバル化等、国内外の事業環境が大きく複雑に変化するなか、新価値創造による強い企業成長を目指すため2019年度から2023年度までの5カ年の中期経営計画「Unique 2023 ～エバラらしさの追究～」を推進しております。基本とする戦略方針を「コア事業による収益強化と戦略事業の基盤確立」「“エバラらしく&面白い”ブランドへの成長」と定め、企業成長に向けたチャレンジを継続し、エバラの独自性、面白さに磨きをかけて、当社グループの根幹を支えるコア事業の収益拡大を図ってまいります。また、将来の成長ドライバーとなる戦略事業を推進し、国内外で新たな需要、市場を開拓することで、事業規模の拡大とエバラブランドの浸透を図ってまいります。「Unique 2023」の第1フェーズ(2019～20年度)におきましては、事業基盤の整備強化やコミュニケーションの進化を通じた多様な価値創造を推進し、『黄金の味』の売上伸長、ポーション調味料の市場拡大、業務用事業の収益力強化及び戦略事業の基盤確立に向けた取り組みの強化を進めております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、123億70百万円(前年同期比1.9%増)となりました。主な要因としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により家庭内喫食率が増加するなか、需要の急増に対応し、安定供給に努めた家庭用商品の売上伸長が挙げられます。なかでも、2020年2月に32年ぶりの新テイストを展開し、ラインアップを強化した『黄金の味』が精肉の家計消費量の増加も追い風となり大きく売上を伸ばしたほか、テレビCMやWEB・SNSを通じて汎用性や調理の手軽さを訴求したポーション調味料が好調に推移いたしました。利益面につきましては、売上高の増加や商品構成の変化等による売上原価率の低減に加え、政府や各自治体の外出自粛要請により旅費交通費等が未使用となった影響もあり、営業利益は10億46百万円(前年同期比129.6%増)となりました。経常利益につきましては、10億76百万円(前年同期比126.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、7億5百万円(前年同期比131.0%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<食品事業>

食品事業の売上高は104億17百万円(前年同期比1.9%増)となりました。

家庭用商品は前年同期売上高を上回りました。肉まわり調味料群につきましては、『黄金の味』が好調に推移したほか、『極旨焼肉のたれ』や『おろしのたれ』も同様に売上を伸ばし、前年同期実績を上回りました。鍋物調味料群につきましては、汎用性を訴求している『すき焼のたれ』や『プチッと鍋』が内食需要の高まりを背景に売上を伸ばした結果、前年同期実績を上回りました。野菜まわり調味料群につきましては、『浅漬けの素』が堅調に推移し、前年同期実績を上回りました。その他群につきましては、今期より販売機能を移管したチルド商品の売上が連結対象外となったなか、『プチッとうどん』や『横濱舶来亭カレーフレーク』が好調に推移したことにより、前年同期実績を上回りました。

業務用商品は前年同期売上高を下回りました。当社の主要販売先である外食産業において、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛要請により来店客数が大きく低下したことに加え、海外事業においても、各国の感染症対策による営業活動の制限等が影響し、肉まわり調味料群、スープ群及びその他群ともに売上が低調に推移した結果、前年同期実績を下回りました。

<物流事業>

既存顧客の倉庫保管需要の取り込みにより取引を伸長させたほか、内食需要の高まりを背景に食品メーカーを中心に共同配送の取扱量が増加した結果、物流事業の売上高は15億68百万円(前年同期比5.5%増)となりました。

<その他事業>

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、広告宣伝事業がイベント中止等の影響を受けたほか、人材派遣事業において試食販売員の派遣機会の低下等が響き、その他事業の売上高は3億84百万円(前年同期比9.8%減)となりました。

売上高の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

事業名称及び商品群名	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	対前期比 (%)
食品事業	10,225	10,417	1.9
家庭用商品	7,974	9,097	14.1
肉まわり調味料群	4,371	4,954	13.3
鍋物調味料群	1,234	1,554	25.9
野菜まわり調味料群	1,544	1,576	2.1
その他群	823	1,012	22.9
業務用商品	2,251	1,319	△41.4
肉まわり調味料群	751	489	△34.9
スープ群	809	464	△42.7
その他群	689	366	△46.9
物流事業	1,486	1,568	5.5
その他事業 (広告宣伝事業、人材派遣事業等)	426	384	△9.8

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産額につきましては、前連結会計年度末に比べ10億13百万円増加（前期比2.7%増）し、385億21百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末に比べ10億63百万円増加（前期比4.4%増）し、254億46百万円となりました。

固定資産につきましては、有形固定資産が1億45百万円減少（前期比1.7%減）し、無形固定資産は2百万円減少（前期比0.9%減）しました。また、投資有価証券の増加等により、投資その他の資産が99百万円増加（前期比2.3%増）したことで、固定資産は49百万円減少（前期比0.4%減）して、130億74百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計額につきましては、前連結会計年度末に比べ4億24百万円増加（前期比3.5%増）し、124億56百万円となりました。

流動負債につきましては、賞与引当金の増加等により、前連結会計年度末に比べ3億79百万円増加（前期比4.9%増）し、81億65百万円となりました。

固定負債につきましては、退職給付に係る負債の増加等により、前連結会計年度末に比べ45百万円増加（前期比1.1%増）し、42億90百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産額につきましては、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ5億89百万円増加（前期比2.3%増）して260億65百万円となりました。当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は67.7%（前期末は67.9%）、1株当たり純資産額は2,517円29銭（前期末は2,460円36銭）となりました。

当社グループの資金需要につきましては、今後予想される様々な経営環境の変化に対応し、さらなる発展と飛躍を目的として、事業分野の拡大や研究及び開発体制の強化、生産設備の拡充等に、資金を活用していきたいと考えております。資金調達につきましては、グループ内の資金の一元化と低コストかつ安定的な資金確保の観点から、グループファイナンスシステムを導入しております。これは、グループ内における必要な運転資金や設備資金については、当社にて調達し、機動的かつ効率的にグループ内で配分することにより、金融費用の極小化を図っており、必要な資金は主に営業活動によって得られるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借り入れ等によって調達しています。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ9億65百万円増加し、138億15百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、12億60百万円（前年同四半期は12億12百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益において10億74百万円獲得したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2億33百万円（前年同四半期は2億10百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億76百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、57百万円（前年同四半期は80百万円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額1億82百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の第2四半期（累計）連結業績予想につきましては、2020年5月14日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。なお、通期の連結業績予想に変更はありません。

新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響につきましては、当初当事業年度半ばまでを見込んでおりましたが、現時点における国内の感染状況や各事業の市場動向等を鑑み、当事業年度中は影響が継続するものと考えております。今後の新型コロナウイルス感染症の状況等により事業環境が変化し、業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

詳細については、本日（2020年7月31日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,445	14,416
受取手形及び売掛金	7,988	8,076
商品及び製品	1,386	1,419
原材料及び貯蔵品	747	721
その他	816	812
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	24,383	25,446
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,944	2,944
その他(純額)	5,590	5,444
有形固定資産合計	8,534	8,389
無形固定資産		
	334	331
投資その他の資産		
投資有価証券	1,897	2,036
長期貸付金	199	205
繰延税金資産	1,488	1,446
その他	692	689
貸倒引当金	△23	△24
投資その他の資産合計	4,254	4,354
固定資産合計	13,124	13,074
資産合計	37,507	38,521

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,585	4,744
短期借入金	83	208
未払金	1,598	1,066
未払法人税等	337	382
賞与引当金	344	726
役員株式給付引当金	14	18
販売促進引当金	537	519
その他	285	499
流動負債合計	7,786	8,165
固定負債		
退職給付に係る負債	3,845	3,890
資産除去債務	216	216
その他	183	183
固定負債合計	4,245	4,290
負債合計	12,031	12,456
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387	1,387
資本剰余金	1,655	1,655
利益剰余金	22,513	23,031
自己株式	△247	△247
株主資本合計	25,308	25,826
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	255	343
為替換算調整勘定	127	104
退職給付に係る調整累計額	△215	△209
その他の包括利益累計額合計	167	238
純資産合計	25,475	26,065
負債純資産合計	37,507	38,521

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	12,138	12,370
売上原価	6,503	6,203
売上総利益	5,634	6,166
販売費及び一般管理費	5,179	5,120
営業利益	455	1,046
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	17	15
売電収入	15	14
持分法による投資利益	3	7
その他	6	6
営業外収益合計	46	48
営業外費用		
支払利息	2	2
売電費用	6	5
為替差損	15	10
その他	2	0
営業外費用合計	26	17
経常利益	475	1,076
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
投資有価証券売却損	—	1
ゴルフ会員権評価損	—	1
その他	0	0
特別損失合計	0	3
税金等調整前四半期純利益	475	1,074
法人税等	170	368
四半期純利益	305	705
親会社株主に帰属する四半期純利益	305	705

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	305	705
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20	87
為替換算調整勘定	△4	△23
退職給付に係る調整額	6	6
その他の包括利益合計	△17	70
四半期包括利益	287	776
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	287	776
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	475	1,074
減価償却費	250	245
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	1
ゴルフ会員権評価損	—	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	325	381
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	3	4
販売促進引当金の増減額 (△は減少)	△95	△17
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	68	54
受取利息及び受取配当金	△20	△19
支払利息	2	2
持分法による投資損益 (△は益)	△3	△7
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,210	△92
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△101	△8
仕入債務の増減額 (△は減少)	264	161
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△181	123
未払金の増減額 (△は減少)	△438	△419
その他	△27	62
小計	△690	1,547
利息及び配当金の受取額	20	18
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△539	△302
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,212	1,260
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	0	0
定期預金の預入による支出	△6	△6
投資有価証券の売却による収入	—	12
投資有価証券の取得による支出	△3	△27
有形固定資産の売却による収入	—	1
有形固定資産の取得による支出	△155	△176
無形固定資産の取得による支出	△26	△41
その他	△20	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△210	△233
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	125	125
配当金の支払額	△205	△182
財務活動によるキャッシュ・フロー	△80	△57
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,504	965
現金及び現金同等物の期首残高	11,594	12,850
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,089	13,815

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	10,225	1,486	11,712	426	12,138
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,225	1,486	11,712	426	12,138
セグメント利益	549	5	555	15	570

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業等を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	555
「その他」の区分の利益	15
全社費用(注)	△114
四半期連結損益計算書の営業利益	455

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	10,417	1,568	11,986	384	12,370
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,417	1,568	11,986	384	12,370
セグメント利益	1,149	44	1,193	△8	1,185

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業等を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,193
「その他」の区分の利益	△8
全社費用(注)	△138
四半期連結損益計算書の営業利益	1,046

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。